

電子工作少年の現在

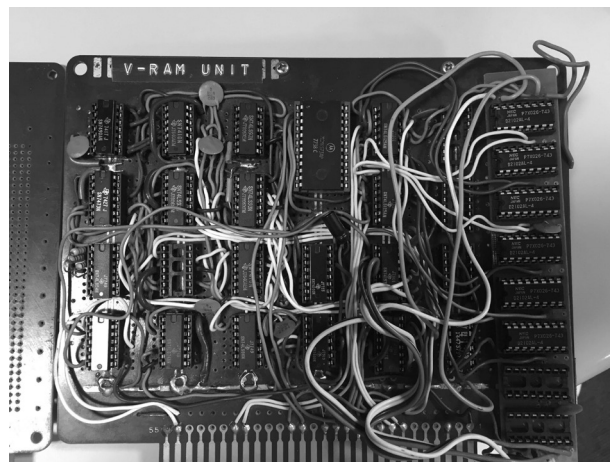
札幌市医師会
JA北海道厚生連 札幌厚生病院

鈴木恵士郎

【アマチュア無線】昭和48年、小学校6年のときに当時流行っていたアマチュア無線の資格(電話級)を取って、父に「勉強も頑張るから」と約束してトランシーバーとアンテナを買ってもらった。休みの日に父と叔父に手伝ってもらって自宅の屋根にアンテナを上げ、トランシーバーをつないで無線交信を楽しんでいた。中学に入ってから人並みに好きな女の子ができ告白したもののあっさりと振られてしまい、それからはますます無線の世界に没頭した(笑)。その後、高校に入ってすぐに電信級の資格を取得したが、新しくできた友人と一緒にフォークギターにはまってしまい、無線の世界から遠ざかってしまった。それから約40年、齢56になろうという直前に、たまたま書店で見かけた雑誌の「カムバック・ハム(アマチュア無線)」という記事に惹かれ、再びアマチュア無線の世界に戻ろうと決心した。戻るからには最上級の「第1級アマチュア無線技士」の資格を取得しようと奮い立ち、猛勉強で試験に合格。で、住んでいるマンションにアンテナを建てたいと管理組合にお願いしたところ「規約上許可できません」とけんもほろろに断られた。先日米国の(アマチュア無線)最上級資格であるExtra Classの資格も取得したが、所謂ペーパードライバー状態で、この後どうしようと模索中である。

【コンピューター】中学3年(昭和51年)の夏、日本電気(NEC)からTK-80という8bitマイクロコンピューターの組み立てキットが発売されて、わが国でも個人レベルでコンピューターを所有し動かす環境が整い始めた。電子工作に夢中だった当時の僕にとってはこの上なく魅力的な対象だったが、当時で9万円近い価格はおいそれと買えたものではなく、入学祝い+サッポロビール園の皿洗いアルバイト(+親の援助)でようやく資金繰りがついたのは高校1年の夏休み明けだった。当時電子部品を買いによく通っていた札幌電子部品商会(北8西4の角)に飛んでいき、買おうとしたら店の親父さんが「モトローラ社のMEK6800D 2なら6万円がいいよ」と言う。迷った挙げ句、周辺機器の製作にもお金がかかることから少しでも安いMEK6800D 2に決定。この頃は暇さえあれば半田ごてを握ってコンピューター・ディスプレイを自作したり、BASICを動かすことに必死で、負け惜しみだが「彼女がいなくても幸せな俺」状態だったなあ…まあ高校3年になって初めて彼女ができた時は、この上もなく幸せだっ

たけど(笑)。その後はNEC PC-8801やPC-9801に始まるパーソナルコンピューター時代が訪れて、ハードウェアの自作よりソフトウェアを組むことが重視される時代となって、気持ちも徐々にfade outしてしまった。時は流れ、先日、実家の物置から埃を被った自作基板を発見。40年前の感動をもう一度味わおうと当時の資料を集めて復活を目論んでいるが、思うようには進んでいない。



自作したビデオ・ディスプレイ回路。
基板上部のダイモ・テープ (V-RAM UNIT) に時代を感じる。

【オーディオ】大学1年の春休みだったと思うが、丸井今井の9階催事場で東京名店市のようなものが催され、その中の電気店でアルバイトとして1週間働いたことがあった。そこには当時すでに廃番となっていたケンクラフト社(トリオ(現ケンウッド)のキット用ブランド)のオーディオ装置のキットが置かれていた。もらえるはずのバイト料よりわずかに高い金額だったが、代わりにこのキットが欲しいと社長にお願いしたらあっさりとOKが貰え、プリアンプとターンテーブルのキットに加え小さなスピーカーをおまけしてくれた。寝る間も惜しんでキットを製作し、完成したターンテーブルにレコードを載せて針を落とし、彼女と一緒に山下達郎や大滝詠一を楽しんだ。このころは今で言う「リア充」だったように思う(笑)。当時はカセットテープが主流だったが、中古のオープンリールのテープデッキを手に入れ、悦に入っていたものだった。その後、引っ越しを機に装置を処分してからオーディオ熱も冷めていたが、数年前に学会の空き時間に訪れた秋葉原で、出力は0.5Wしかないが電流帰還型のアンプキットをたまたま見つけて早速購入した。すぐに組み立て、JBLのControl Oneに繋いでみるとこれまたいい音がする。次は真空管アンプでも作ろうと計画中である。